

社会貢献

基本的な考え方・方針

ニチレイグループでは、事業を遂行するには地域や社会との良好な関係を構築すること、事業を通じて地域や社会の発展に貢献することが重要であると認識しています。当社グループでは、社会貢献に対する考え方を以下の方針として定め、事業活動・事業活動以外の双方について、社会との共存共栄を目指した社会貢献に努めます。

ニチレイグループ社会貢献基本方針

わたしたちニチレイグループは、企業市民として広く社会から信頼される企業でありたいと考えます。わたしたちは、素材を見きわめ、おいしさと健康を創り出し、安全で効率的な物流を通じて社会に貢献します。さらに、事業活動以外の分野においても自らの誠意と共感と使命感に基づき、社会貢献活動を行います。わたしたちは、この考え方にに基づき、食や物流に関する教育、地域貢献、環境保護、災害支援、スポーツ支援を中心に、積極的な社会貢献活動に取り組みます。

マネジメント体制

社会貢献活動については、当社グループでは「グループ社会貢献委員会」を設置しており、委員会を年1回開催するほか、必要に応じて委員長が招集する形で、取組みのチェックや見直しを行っています。また、北海道茅部郡の森工場では、地域自治体と協定を結び、町有地の森林整備を行っています。

[グループ社会貢献委員会](https://www.nichirei.co.jp/corpo/management/governance.html) (https://www.nichirei.co.jp/corpo/management/governance.html)

2017年度の取組み

■ 社有資産の活用による貢献

小笠原諸島父島

小笠原諸島の父島にニチレイの源流となる製氷会社のひとつである日東製氷株式会社が製氷工場を設置していました。敗戦後の米国による小笠原接収をくぐりぬけ、昭和43年の日本への返還とともに、この土地と建物はニチレイの所有地として登記されました。父島ではタコノキの葉を使ったタコノキの葉細工やフラダンスサークル等の地域活動が盛んです。その活動場所として利用していただこうと考え、残存していた建物を解体の上、工場跡地に芝を張り、きれいに整備しました。



整備された工場跡地

裏磐梯

[社有資産の活用による貢献 > 裏磐梯](https://www.nichirei.co.jp/csr/social/property.html) (https://www.nichirei.co.jp/csr/social/property.html)

■ 事業特性を活かした「食や物流に関する教育」

ニチレイフーズの食育活動

ニチレイフーズでは、子どもたちの健やかな未来のために、さまざまな食育活動を進めています。毎日の生活の中で、「食」はいのちと深く関わる大切な存在。豊かな食生活は、カラダだけではなく心も健やかに育みます。子どもたちが健やかに育つには、「食」の大切さの気づきや、「食」についてのさまざまな知識、そして「食」を選ぶ力が欠かせません。ニチレイフーズでは、子どもたちと一緒に「食」について学び、考え、実践するさまざまな取組みを行っています。

「食品開発センター」キッザニア東京、キッザニア甲子園

[キッザニア東京、キッザニア甲子園にパビリオンを提供](https://www.nichirei.co.jp/csr/social/education.html) (https://www.nichirei.co.jp/csr/social/education.html)

出張工場見学

コンセプトは、見る!学ぶ!楽しく!ニチレイフーズの社員が講師となり、小学生を対象に、リアルな動画とパワーポイントを使って、冷凍食品(本格炒め炒飯®や今川焼など)ができるまでの製造工程を分かりやすく紹介します。実際の工場見学でも見られないような映像や冷凍食品クイズを盛り込みながら楽しく学べるプログラムです。ニチレイフーズのていねいなものづくりへの想いと冷凍食品の良さを子どもたちに伝えたいと考えています。2017年度は20回の出張工場見学を実施し、900名の児童が参加し、ときに笑顔で、ときに真剣な眼差しで動画に見入っていました。



五味の識別テスト

甘味・酸味・塩味・苦味・旨味の「味」を感じる五味テスト体験と題して、味はどのように感じるか?冷凍食品とは?というテーマで講義をし、五味の識別テストを体験して頂く、食育プログラムです。2017年度は9回実施し、300名に参加いただきました。

※ 公募はしていません

FamilyApps

親子で楽しめるスマートフォン向けアプリケーション「FamilyApps」に、ニチレイフーズの冷凍食品を活用したお弁当づくりができる「ニチレイの美味しいお弁当をつくらう!」を配信しています。子どもたちが楽しくお弁当づくりを体験し、食品に対する興味や関心を深めることができるようなコンテンツになっています。2017年度は14回イベントを開催し、1,700名に体験していただきました。

おいしさことば

事業特性を活かした「食や物流に関する教育」> おいしさことば (<https://www.nichirei.co.jp/csr/social/education.html>)

ニチレイフレッシュの食育活動

(株)フレッシュチキン軽米では、軽米町の小学校や幼稚園で食育授業を行っています。授業では、岩手県は宮城県、鹿児島県に次いで全国で3番目に鶏肉の生産量が多いことや、当社製品の「純和鶏」は軽米町で生産する飼料米を食べて育っていること、そして「純和鶏」の鶏ふんが飼料米の有機質肥料として活用されていることなどを分かりやすく紹介。地域で行われている循環型の生産サイクルを学んでもらうとともに、当日の給食には「純和鶏」のメニューを食べていただいています。今後もこのような地域の方とのふれあいを大切にしながら、魅力ある事業展開を進めていきます。



物流に関する教育

大学への寄付講座

事業特性を活かした「食や物流に関する教育」> 大学への寄付講座 (<https://www.nichirei.co.jp/csr/social/education.html>)

物流業界インターンシップへの参加

ニチレイロジグループでは、2014年から毎年行われている日本物流団体連合会主催の「物流業界インターンシップ」に受入企業として参加しています。この取組みは大学生を対象に物流業を横断的に見学・体験してもらうためのものです。受入当日は、ニチレイロジグループの事業紹介や食品物流についての講義と物流センター見学のプログラムを提供し、参加した学生さんからは「食品物流の重要性が理解できた」「物流に興味があった」との声を多く頂きました。これからも物流業界を幅広くアピールするために積極的に参加していきます。

事業所見学・職場体験の受け入れ

物流センターでの社会科見学・インターンシップの受け入れ

ニチレイロジグループは、各地の物流センターで、周辺地域の小中学生を中心とした事業所見学を継続的に受け入れています。2017年度は大井物流センターにて中学生を、都築物流センターで保育園児を対象に見学会を行いました。従業員の説明を受けたのち、冷蔵倉庫内の温度(マイナス20度以下)を体感してもらいました。また、盛岡西物流センターでは市の依頼により、3名の高校生を対象にインターンシップを実施しました。物流センターの業務を実際に体験し、食品物流への理解を深めてもらいました。

■ 食の有効活用・フードバンクへの協力

ニチレイフーズでは、2005年7月よりNPO法人セカンドハーベスト・ジャパン[※]のフードバンク活動に賛同しています。アメリカでの駐在経験のある社員が、アメリカで普及しているフードバンク活動に共感し、ニチレイとしてもこうした活動への協力を行いたいと考え、提携先を模索していたところ、セカンドハーベスト・ジャパンの存在を知り、提携に至ったものです。輸入時に外箱が変形した商品など、品質に問題はないものの一般市場では販売できない冷凍食品を無償で提供しています。ニチレイロジグループの協力により、低温輸送でセカンドハーベスト・ジャパンの認定する養護施設などに直接お届けしています。

※「セカンドハーベスト・ジャパン」：日本初のフードバンク。2002年7月に法人格を取得。安全性が保証された食料を、生活困窮者に供給する支援活動を行っている。



有効利用が難しい
「ブローン・カートン」の一例

■ 事業活動を通じた支援

ニチレイ育みの森

北海道にあるニチレイフーズ森工場は、北海道茅部郡森町と協定を結び、森町の町有地を森林整備する「ニチレイ 育みの森」活動を始めました。この取組みは、「森にGood!」活動の一環として、森町の1.2ヘクタールの町有地に植林し、10年間に森町の花である桜（ソメイヨシノ）400本を植樹し、育てていく計画です。森工場の従業員とその家族、地域の皆様にも参加いただき、地域に根付いた活動として取り組んでいます。

「森にGood!」森林保全活動は各工場に拡大しており、(株)キューレイでは福岡県宗像市のさつき松原の再生、ニチレイフーズ白石工場では蔵王のぶなの森づくりを支援しています。

石巻仮設住宅での料理講習会(ニチレイフーズ)

ニチレイフーズは、東日本大震災の被災地支援として仮設住宅で料理教室を開催してきました。住民の方の多数が転居された後は、小学校での「出張工場見学」を通じて支援を継続しています。出張工場見学とは、従業員が小学校に出向いて工場見学を体験してもらうプログラムです。このプログラムを通じて、生産現場のリアルな映像や音声で冷凍食品ができるまでの過程とともに、ニチレイフーズの安全・安心への取組みと、ものづくりへのこだわりについても、小学生に分かりやすく伝えています。2017年度は宮城県の石巻市立二俣小学校と湊小学校で実施し、合計43名の児童が授業を受けました。

生命(いのち)の森プロジェクト(ニチレイフレッシュ)

 生命(いのち)の森プロジェクト (<https://www.nichireifresh.co.jp/inochinomori/>)

ミャンマーの病院への検査薬提供(ニチレイバイオサイエンス)

ニチレイバイオサイエンスでは、2006年度から、新潟大学医学部病理学教室を通じ、病理検査に使われる当社製品をミャンマーの医療機関へ無償提供しています。免疫染色用の42種類の抗体は、現地では入手困難です。それらの抗体と検査に必要な試薬は、第一、第二医科大学およびヤンゴン小児病院に贈られ、各施設での研究や病理診断など実地の医療に活用されています。2018年2月には、新潟大学の内藤眞先生らがミャンマー第二医科大学を訪れ、当社からの検査薬のほか、病理の教材をつくるための病理染色例集などを提供しました。今後も継続してミャンマーでの病理研究・診断、医学教育の向上に貢献していきたいと考えています。



「ホスピタリティ・ゲストハウス ア・ドリーム ア・デイ IN TOKYO」への施設サポート

原因不明の子どもの難病は500種類以上あり、20万人もの子どもが病気と闘っています。ご家族の精神的苦痛や経済的負担も計り知れません。難病児とご家族の支援団体「ア・ドリーム ア・デイ IN TOKYO」は、難病児が生きる勇気を持ち、ご家族が苦悩を軽減するよう、東京旅行で楽しい思い出を作ってもらう活動を実施しています。ニチレイグループはこれに賛同し、ニチレイ研修センター・スコレ雪ヶ谷を宿泊先として提供しているほか、ニチレイフーズもキッズシア見学などの支援を行っています。



ニチレイ研修センターを宿舍として提供

■ 健康な生活のためのスポーツ支援

ニチレイは、「食」とともに健康を支えるもうひとつの柱である「スポーツ」を応援していきます。

[🔗 健康な生活のためのスポーツ支援 \(https://www.nichirei.co.jp/csr/social/sports/index.html\)](https://www.nichirei.co.jp/csr/social/sports/index.html)

■ 寄付・その他支援

被災地への義援金の拠出

ニチレイは東日本大震災で甚大な被害を受けた3地方自治体(岩手県、宮城県、福島県)に対して、2011年度より5年間にそれぞれ毎年1千万円ずつ、合計1億5千万円の義援金を寄付いたしました。2011年6月に開催した日本女子プロゴルフ公認トーナメント・ニチレイレディスでは入場料収入全額などを千葉県、千葉市へ寄付しました。

また、2016年の熊本地震では、熊本県に対して1千万円の義援金を寄付するとともに、熊本県の要請を受けて宇城市役所に「レストランビーフカレー」9,000食を提供しました。

2018年度の「平成30年7月豪雨」では、甚大な被害を被った被災地の早期復興を支援するため、日本赤十字社を通じ1,000万円の義援金を寄付しました。また、有志従業員の賛同金と会社からの拠出によるマッチングギフト制度である「ニチレイふれあい基金」より、同じく日本赤十字社へ100万円を寄付しました。

ふれあい基金からの拠出

当社グループでは、寄付・募金活動を通じて社会に貢献することを目的に1993年に「ニチレイふれあい基金」を設立し、従業員と会社からの賛同金を募り、社会福祉支援、災害・医療支援や災害等に見舞われた国内外の被災地に対して、義援金や救援金という形で支援を行っています。

主な寄付先としては、「中央共同募金会」「東京善意銀行」を通じて、社会的養護からの自立支援を目的とした「卒業祝い金」および、生活困難やいじめなどからの救済を目的とした「子ども食堂」への支援を行っているほか、「日本赤十字社」には、災害対応の事前準備費用を支援しています。2017年度は総額2億6,200万円の寄付金を拠出しました。

公益信託経団連自然保護基金への協力

ニチレイは、公益信託経団連自然保護基金の趣旨に賛同し、1994年から寄付を続けています。同基金は、アジア太平洋地域を主とする開発途上地域における自然保護活動、日本の優れた自然環境保全のために行う保護活動、および持続可能な活用を支援しています。

エコキャップ

当社グループ各事業所では、ペットボトルのキャップを集めて開発途上国の子どものためのワクチンに替えるNPO法人の運動に協力しています。回収したキャップはNPO法人に送付し、プラスチック原材料として売却されリサイクルされます。キャップ800個(20円に相当)でポリオワクチン1人分の購入が可能です。また、ゴミとして焼却処分されると、キャップ400個で3,150gのCO₂が発生しますが、リサイクルすることによりCO₂排出削減につながります。

TABLE FOR TWO への参加

当社グループは「社員食堂から始める社員参加型社会貢献活動」として「TABLE FOR TWO」に参加しています。これは、開発途上国の子どものための学校給食1回分に当たる20円を、社員食堂のメニュー代金に加算し、食料支援への寄付にあてる活動です。また、寄付対象メニューは低カロリーのヘルシーメニューに限定されており、社員の健康増進にも役立っています。現在、ニチレイ東銀座ビルおよび技術開発センターの2事業所の食堂にて実施しています。

絶滅危惧種アツモリソウの再生

[🔗 絶滅危惧種アツモリソウの再生 \(https://www.nichirei.co.jp/csr/social/contribution.html\)](https://www.nichirei.co.jp/csr/social/contribution.html)